

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 8 年 3 月調査結果 - -

(平成 1 8 年 3 月 3 1 日)

調査期間：平成 1 8 年 3 月 1 7 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 5 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 9 製造業 6 2 5 卸売業 2 3 2
小売業 7 4 2 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 9 1 5
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

業況DIは2カ月連続で改善し、マイナス20台前半へ

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（26.6）よりマイナス幅が3.1ポイント縮小して23.5となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業況DIの水準は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要が見られた平成9年3月調査（18.6）以来の高さとなった。

業種別の業況DIも、全業種でマイナス幅が縮小している。各業種から業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として公共事業の縮小、日銀の量的緩和政策解除による影響、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、購買活動に対する消費者の慎重姿勢など消費の低迷、先行き不安を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「公共工事減少も、民間工事で個人住宅・賃貸物件の需要は高く、好調を保っている」（一般工事）との声がある一方、「建設業の業況は依然として低迷しており、厳しい状況に変化はない」（建築工事）との声のほか、「需要の低迷に加え、量的緩和政策解除で銀行の貸出金利が上昇するのではないか」（大工工事）と、今後の金利動向を心配する声も寄せられている。

【製造業】では、「原材料価格の高止まりや受注単価の低迷など厳しい状況に置かれているが、受注は好調で工場の操業度は安定している」（一般産業用機械製造）との声がある一方、「今後は原材料価格の高騰により業況が悪化する恐れがある」（紙製容器製造）、「相変わらず業況が低迷しており、特に原油やガスなどの燃料価格上昇による影響を受けている」（陶磁器・同関連製品製造）と、引き続き仕入や製造コストの増加による影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「今後、輸入果物の販売が上向きになることを期待している」（食料・飲料卸売）との声がある一方、「全般的に販売単価が下落傾向のまま推移しており、今後に期待したいところだが、今のところ好材料が少なく先行きが不安」（各種商品卸売）、「原油価格の高止まりにより、配送コスト上昇の勢いが強くなっている」（農畜産水産物卸売）との声が寄せられている。

【小売業】では、「婦人向け衣料品を中心に店頭売上は前年同月を上回り、今後も卒業や入学などで需要の活発化が期待できる」（百貨店）との声がある一方、「売上は横ばいという状況までようやく回復したが、本格的な消費回復とは言いがたく、地方でも賃上げによる可処分所得の増加が待たれる」（百貨店）、「春は卒業・入学などで人の動きは多いが消費に慎重な姿勢が窺え、売上増加に結びつかない」（商店街）との声が寄せられている。

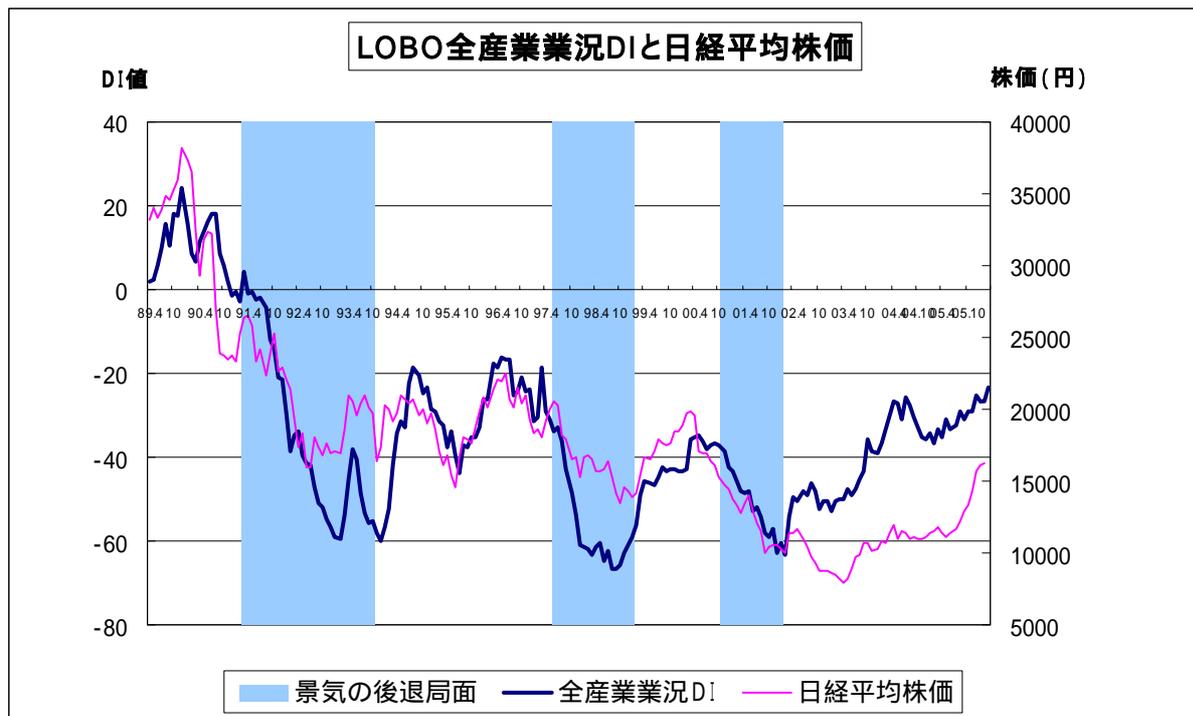
【サービス業】では、「売上が徐々に上向きつつあり、景気回復の兆しを感じられるようになった」（理容）との声がある一方、「昨年同時期と比較して業況は非常に悪く、報道で言われているような景気回復の実感はない」（すし店）といったコメントのほか、「軽油価格高騰により依然として業況は厳しく、また、大半は運賃の値上げ交渉すらできない状況に置かれている」（その他サービス）との声も聞かれる。

売上面では、D I 値のマイナス幅が全業種で縮小し、全産業合計の売上D I は 5 . 5 ポイント縮小して 1 8 . 7 となり、3 カ月ぶりに縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅が全業種で縮小し、全産業合計の採算D I は 4 . 0 ポイント縮小して 2 5 . 5 となり、3 カ月ぶりに縮小した。

向こう3 カ月(4 月～6 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 1 8 . 4 と、昨年同時期の先行き見通し(2 7 . 4)に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、日銀の量的緩和政策解除による影響、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、購買活動に対する消費者の慎重姿勢など消費の低迷、先行き不安を訴えるコメントも見られた。



【業況についての判断】

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 26.6 ）よりマイナス幅が3.1ポイント縮小して 23.5 となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

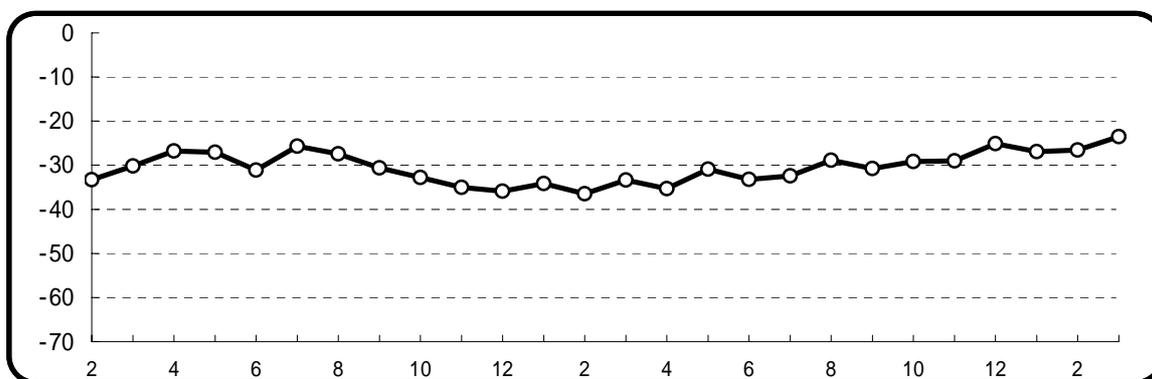
向こう3カ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 18.4 と、昨年同時期の先行き見通し（ 27.4 ）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 10月	11月	12月	18年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	29.2	29.0	25.1	26.9	26.6	23.5	18.4 (27.4)
建設	37.6	37.5	38.1	38.3	37.3	36.4	32.4 (39.8)
製造	18.0	19.5	14.9	12.2	12.7	10.7	12.0 (20.6)
卸売	41.5	32.5	31.9	38.4	35.7	33.3	17.2 (24.8)
小売	32.6	28.0	23.2	25.2	26.6	21.6	17.2 (26.8)
サービス	26.7	33.3	27.1	32.9	30.8	27.8	18.4 (27.8)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年3月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

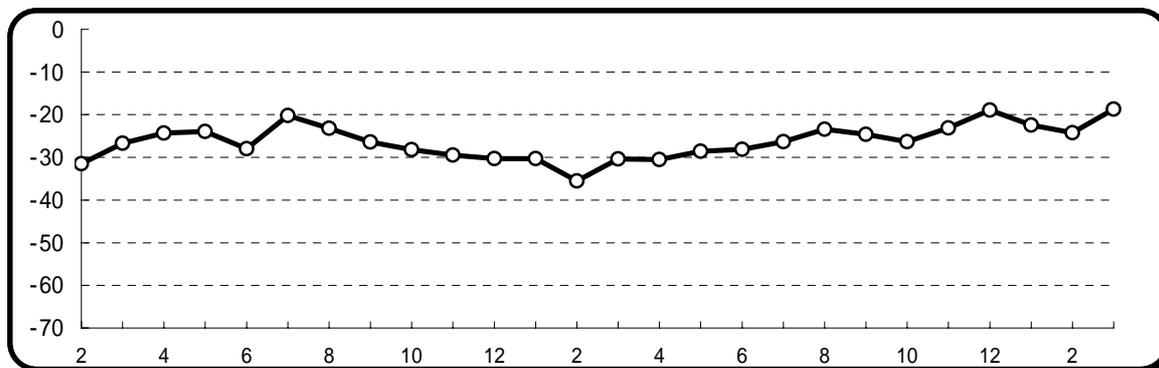
売上面では、D I 値のマイナス幅が全業種で縮小し、全産業合計の売上D I は 5.5 ポイント縮小して 18.7 となり、3 カ月ぶりに縮小した。

向こう3 カ月(4 月～6 月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 12.7 と、昨年同時期の先行き見通し(19.7)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 10月	11月	12月	18年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	26.3	23.1	18.9	22.4	24.2	18.7	12.7 (19.7)
建設	34.3	29.2	30.8	34.6	35.7	33.3	34.7 (39.1)
製造	5.8	11.8	1.6	3.4	4.5	0.0	3.7 (9.1)
卸売	40.9	35.1	33.7	32.1	34.4	34.0	10.8 (22.3)
小売	35.4	25.2	17.7	24.7	29.3	20.6	11.0 (17.7)
サービス	26.4	24.5	25.2	28.3	27.6	21.3	11.3 (19.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

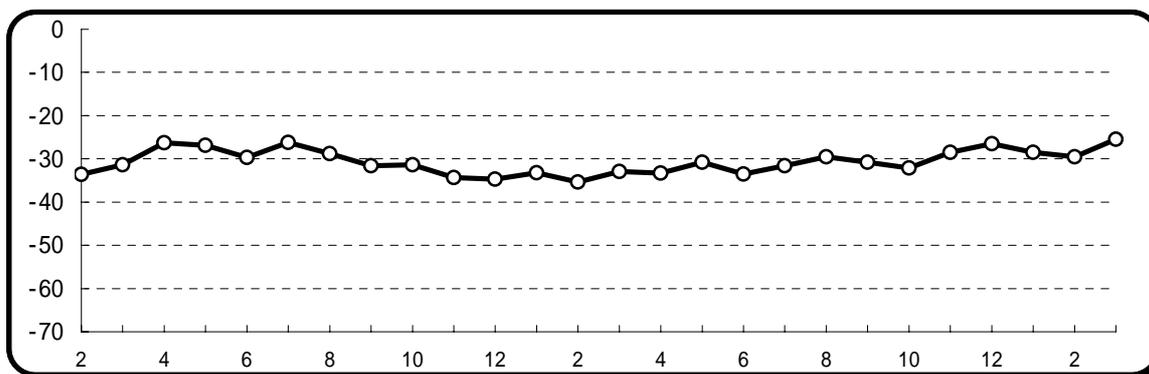
採算面では、D I 値のマイナス幅が全業種で縮小し、全産業合計の採算D I は 4.0ポイント縮小して 25.5となり、3カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 19.1と、昨年同時期の先行き見通し(24.1)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	17年 10月	11月	12月	18年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	32.1	28.5	26.5	28.5	29.5	25.5	19.1 (24.1)
建設	43.1	41.9	43.1	45.4	43.7	41.0	36.3 (40.5)
製造	21.6	24.1	18.9	17.8	18.8	14.5	14.9 (21.0)
卸売	41.5	27.9	27.6	31.4	26.6	25.8	13.4 (17.2)
小売	33.3	22.5	22.8	23.3	28.8	23.2	15.0 (19.5)
サービス	31.3	31.6	27.9	34.0	33.6	30.0	19.9 (24.6)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 10月	11月	12月	18年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	19.0	17.3	18.6	18.8	19.4	18.3	16.6 (20.6)
建設	29.8	27.6	31.3	31.3	32.8	31.6	30.3 (34.3)
製造	15.5	15.1	13.9	13.0	10.5	12.2	12.6 (16.9)
卸売	20.9	12.3	17.7	13.5	17.1	16.7	13.6 (14.8)
小売	16.6	14.8	15.1	15.4	18.0	14.5	14.1 (18.4)
サービス	17.2	17.5	19.1	22.8	22.8	21.6	16.5 (20.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造で悪化超感が強まったものの、他の4業種では弱まり、全産業合計でも4カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 10月	11月	12月	18年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	19.0	17.7	18.5	21.8	19.6	19.6	17.0 (15.5)
建設	31.0	30.6	24.0	29.1	25.7	26.3	23.8 (24.3)
製造	36.3	34.6	35.7	32.3	34.6	33.3	23.5 (30.8)
卸売	13.2	1.3	8.0	18.2	9.1	11.9	16.6 (14.7)
小売	4.9	5.1	6.5	10.7	7.9	7.4	8.0 (2.3)
サービス	12.2	12.4	15.2	21.0	18.3	18.9	16.8 (9.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、小売で上昇超感が弱まる一方、他の3業種で強まった結果、全産業合計では横ばいとなった。

【先行き見通しD I】建設、製造で上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	17年 10月	11月	12月	18年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	3.8	1.8	1.6	0.7	1.2	0.7	2.9 (6.5)
建設	19.0	16.9	14.7	17.9	17.6	16.5	12.2 (19.5)
製造	4.5	3.4	0.5	2.7	1.6	1.6	6.4 (7.1)
卸売	5.7	4.5	4.3	3.1	1.3	1.3	7.2 (10.8)
小売	2.8	6.5	1.5	7.4	3.9	6.4	4.1 (0.9)
サービス	0.2	1.2	3.2	3.8	0.3	2.0	0.3 (1.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】製造で再び過剰超に転じ、卸売で横ばいだったものの、建設で過剰超感が弱まり、小売、サービスで不足超感が強まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに過剰超感が若干弱まった。

【先行き見通し D I】建設、製造、卸売で過剰超感が弱まり、他の2業種で不足超に転じたため、全産業合計でも過剰超感が弱まる見通し。

【平成18年3月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「携帯電話関連製品の製造部門はフル稼働の状況にあり、今後は新モデルの需要増加により工場全体の操業度が回復する見込み」(新井・電子部品製造)とのコメントに加え、「航空機関連分野での受注増加により、工場は多忙を極め人手不足に陥っている」(各務原・他の輸送用機器製造)と従業員不足を訴えるコメントが寄せられている。また、「一部の商品は建設機械やIT関連の需要に支えられ、堅調な動きを維持している」(浦安・鋳物金属材料卸売)との声のほか、「業況は上昇傾向にあり、今後、売上増加が期待できる」(福島・百貨店)「各種景気指標で見る景気回復よりも時期的に遅れたが、わずかながら回復基調に入った感がある」(京都・百貨店)と消費回復への動きを指摘する声も寄せられている。さらに、「今月は歓送迎会の時期であり、月の前半は予約が少なかったものの、後半は忙しくなると思われる」(旭川・食堂・レストラン)「中心市街地再開発で工事関係者の来店者数が増加しており、売上が伸びている」(鹿屋・料亭)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況低迷と先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「公共工事は減少傾向で受注競争が激化しており、4月以降、従業員数に過剰感が出る可能性がある」(帯広・一般工事)「日銀の量的緩和政策解除に伴い銀行からの借入金利が上昇すれば資金繰りが苦しくなる可能性があり、先行きが不透明」(相模原・金属加工機械製造)「依然として顧客からの単価引き下げ圧力が強く、価格競争も激しさを増している」(松山・一般産業用機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「苦しい業況に変化はなく、未だデフレ脱却への兆しも見られない」(倉吉・農畜産水産物卸売)「売上が前年同月比で1割以上減少しており、報道に見られる景気回復を実感できない」(銚子・商店街)「低価格サービスを売り物とする店舗が増加し、来店者数が減少している」(大府・理容)といったコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「予想通り、原材料メーカーから銅等の仕入価格値上げの要望が来た」(守山・管工事)「原油価格高騰の影響を受けている染色工場から加工費の値上げ要請があった」(佐野・ニット生地製造)「燃料費の高騰が依然として続いており、配送コストの上昇に苦労している」(下関・食料・飲料卸売)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも「4月以降、一部商品の仕入価格について値上げの通告を受けている」(新宮・商店街)「牛海綿状脳症(BSE)問題により牛肉の仕入コストが上昇している」(高知・その他の小売)といった声や、「依然、原油価格高騰に伴う仕入コスト上昇に見舞われており、採算が悪化している」(帯広・自動車整備)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月		景気キーワード		
18年	1月	回復への動き	悪化への懸念	仕入コスト上昇
	2月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	3月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・採算D Iは2カ月連続、売上D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「公共工事減少も、民間工事で個人住宅・賃貸物件の需要は高く、好調を保っている」(一般工事)との声がある一方、「需要の低迷に加え、量的緩和政策解除で銀行の貸出金利が上昇するのではないか」(大工工事)「建設業の業況は依然として低迷しており、厳しい状況に変化はない」(建築工事)「年度末になり受注がほとんどなく、資金繰りに苦慮している」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「建設機械などの好調を反映し、下請企業も含めて受注が安定しており、設備投資への動きも出ている」(他金属製品製造)「原材料価格の高止まりや受注単価の低迷など厳しい状況に置かれているが、受注は好調で工場の操業度は安定している」(一般産業用機械製造)との声がある一方、「今後は原材料価格の高騰により業況が悪化する恐れがある」(紙製容器製造)、「販売単価の抑制と仕入コスト上昇により採算が悪化している」(糖類製造)「相変わらず業況が低迷しており、特に原油やガスなどの燃料価格上昇による影響を受けている」(陶磁器・同関連製品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iは2カ月連続、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「今後、輸入果物の販売が上向きになることを期待している」(食料・飲料卸売)との声がある一方、「全般的に販売単価が下落傾向のまま推移しており、今後に期待したいところだが、今のところ好材料が少なく先行きが不安」(各種商品卸売)「原油価格の高止まりにより、配送コスト上昇の勢いが強くなっている」(農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「衣料品の動きが好調で、月初めから来店者数、売上ともに好調を維持している」(商店街)「婦人向け衣料品を中心に店頭売上は前年同月を上回り、今後も卒業や入学などで需要の活発化が期待できる」(百貨店)との声がある一方、「大企業の業況好転の話をよく耳にするが、小規模零細小売店まではその影響は及んでいない」(商店街)「売上は横ばいという状況までようやく回復したが、本格的な消費回復とは言いがたく、地方でも賃上げによる可処分所得の増加が待たれる」(百貨店)「春は卒業・入学などで人の動きは多いが消費に慎重な姿勢が窺え、売上増加に結びつかない」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算・売上D Iともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「売上が徐々に上向きつつあり、景気回復の兆しを感じられるようになった」(理容)、「これから繁忙期を迎えるため、売上増加が期待できる」(食堂・レストラン)との声がある一方、「昨年同時期と比較して業況は非常に悪く、報道で言われているような景気回復の実感はない」(すし店)「来店者数、客単価ともに低調に推移しているのに加え、金利負担増や金融機関の貸出姿勢変化による資金繰り悪化に悩んでいる事業者も多い」(バー、キャバレー等)「軽油価格高騰により依然として業況は厳しく、また、大半は運賃の値上げ交渉すらできない状況に置かれている」(その他サービス)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、九州でマイナス幅が拡大したが、他の7ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月連続で縮小した。

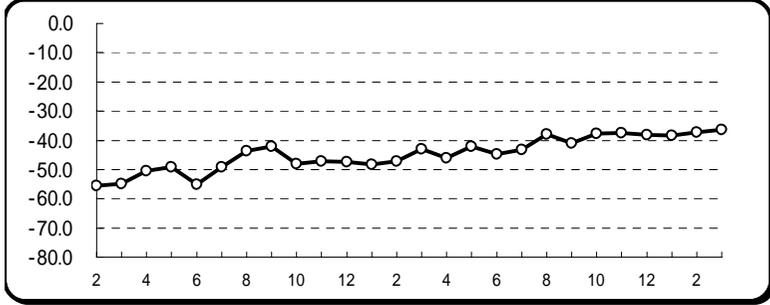
ブロック別の向こう3カ月(4月~6月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道、四国で悪化したものの、他の7ブロックで縮小し、全ブロック合計でも縮小している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

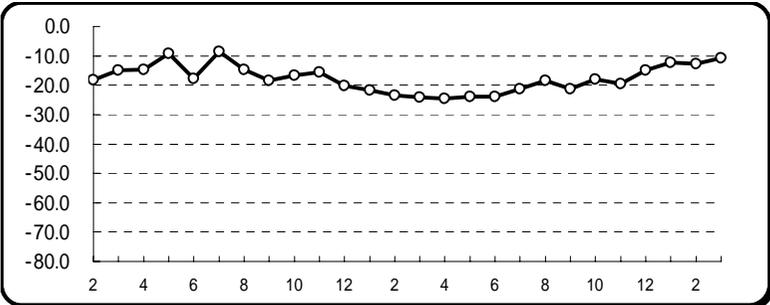
	17年 10月	11月	12月	18年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全 国	29.2	29.0	25.1	26.9	26.6	23.5	18.4 (27.4)
北海道	39.3	30.0	34.9	25.9	35.4	33.6	25.7 (21.6)
東 北	25.0	28.9	26.4	34.2	25.2	27.9	22.9 (37.7)
北陸信越	23.6	23.7	19.0	33.3	28.0	22.7	18.4 (30.2)
関 東	27.3	26.0	21.9	19.2	21.0	19.3	13.4 (22.3)
東 海	25.4	29.5	17.9	14.9	17.2	14.3	10.9 (24.1)
近 畿	31.2	32.4	24.7	34.5	32.2	26.5	23.7 (27.5)
中 国	32.9	26.6	31.8	32.6	41.4	27.0	21.9 (33.8)
四 国	30.2	34.1	35.2	35.4	33.3	31.0	24.6 (20.8)
九 州	33.3	32.8	26.5	25.0	19.2	21.0	14.2 (34.3)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

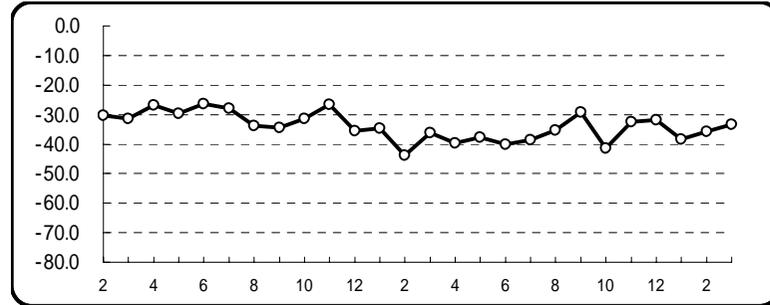
建設業



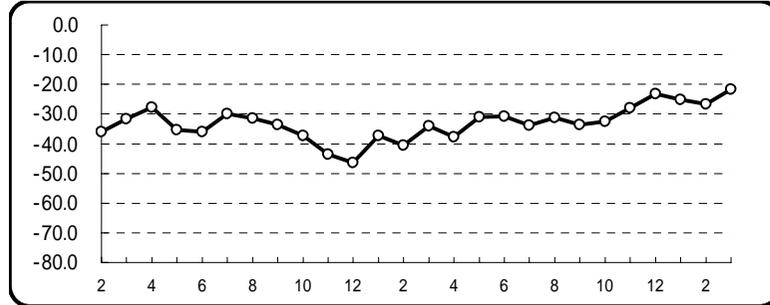
製造業



卸売業



小売業



サービス業

